

CASBEE-広島（2010年ver.1）

緑井整形外科

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版

■ベース評価ソフト： CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分			
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										2.6	
Q1 室内環境							0.40			2.2	
1 音環境						2.3	0.15	2.7	1.00	2.4	
1.1 騒音						3.0	0.40	3.0	0.40		
1		暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00				
		設備騒音対策			-		-				
1.2 遮音				2.4	0.40	2.3	0.40				
1		開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30				
2		界壁遮音性能		2.0	0.60	2.0	0.30				
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	2.0	0.20				
4		界床遮音性能(重量衝撃源)			-	2.0	0.20				
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	0.20				
2 温熱環境						2.0	0.35	2.0	1.00	2.0	
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50		
1		室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57				
		室温変動・温度制御性			-		-				
3		外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43				
4		ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
		日射・日食制御			-		-				
		個別制御			-		-				
		設備の空調に依存する配慮			-		-				
		監視・記録			-		-				
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20				
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境						1.9	0.25	2.8	1.00	2.1	
3.1 屋光利用				開口部をW、H共できるだけ大きくとった。		3.0	0.30	4.2	0.30		
1		屋光率				3.0	0.60	5.0	0.60		
2		方位別開口					-		-		
3		屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策						1.0	0.30	3.0	0.30		
		眩感対策					-		-		
2		屋光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15		
1		照度				3.0	1.00	3.0	1.00		
		照度対策					-		-		
3.4 照明制御						1.0	0.25	1.0	0.25		
4 空気質環境						2.7	0.25	2.7	1.00	2.7	
4.1 発生源対策						3.0	0.50	3.0	0.63		
1		化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00				
		化学汚染対策			-		-				
		臭気対策			-		-				
		ばいじん対策			-		-				
4.2 換気				2.0	0.30	2.3	0.38				
1		換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2		自然換気性能			-	3.0	0.33				
3		取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33				
		換気制御			-		-				
4.3 運用管理				3.0	0.20		-				
1		CO ₂ の監視			-		-				
2		喫煙の制御		3.0	1.00		-				
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性						3.0	0.40	3.2	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				天井を高くとった。 隣接地の病院・特別養護老人ホームと内装仕様を同等として計画した。		3.0	0.60	3.0	0.60		
1		広さ・収納性					-	3.0	1.00		
2		高度情報通信設備対応					-		-		
3		バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性						3.0	0.40	3.5	0.40		
1		広さ感・景観					-	4.0	0.50		
2		リフレッシュスペース					-		-		
3		内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理							-		-		
1		維持管理に配慮した設計					-		-		
2		維持管理用機能の確保					-		-		
2 耐用性・信頼性						3.0	0.31		-	3.0	
2.1 耐震・免震						3.0	0.48		-		
1		耐震性		3.0	0.80		-				
2		免震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33		-				
1		躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-				
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-				
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-				
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-				
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15		-				
6		主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-				

	2.3 設備の更新				-		-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19		-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3	電気設備		3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
	3 対応性・更新性			3.1	0.29	3.9	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	2.8	0.50	
	1	階高のゆとり		3.0	0.60	2.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	雑壁を多くし、改修などにも対応できる構造とした。	4.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		設計段階で荷重に余裕をもたせた。	3.0	0.31	5.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	2.7
	1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
	LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.3
	LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.6
	1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
	2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
	3 設備システムの高効率化		断熱などで気密性を高めシステムの効率を図っている。 ERR=42.4	5.0	0.30		-	5.0
	4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
	LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.0
	1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
	1.1	節水		3.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
	2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33		-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63		-	3.1
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20		-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	エコマーク品(タイルカーペット:宿直室、カウンター:受付)	4.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
	1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない。	4.0	0.33		-	
	2	断熱材		2.0	0.33		-	
	3	冷媒		3.0	0.33		-	
	LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.3
	1 地球温暖化への配慮		運用・利用・維持管理に係わるCO2排出量の低減を図った。	5.0	0.33		-	5.0
	2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
	3 周辺環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1	騒音		3.0	0.33		-	
	2	振動		3.0	0.33		-	
	3	悪臭		3.0	0.33		-	
	3.2 風害、日照阻害の抑制			1.6	0.40		-	
	1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
	2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	